

乳がん 高度検診・治療センター NEW ーす NO.55

2018.12

乳がんの 標準治療 とは？

乳がんの標準治療については何度か主題として取り上げてきましたが、まだまだ誤解が少なくないので、今回あらためて解説します。標準治療の「標準」とは上・中・下の中ランクという意味ではなく、標準治療とは、現在の臨床現場で使用できる最善の治療法を指します。

標準治療とガイドライン

一昔前、乳がんを含めたがん治療、特に術後の薬物療法などは医師の裁量に委ねられており、治療方針は病院間だけでなく担当する医師の間でも微妙に異なっていました。こうした非科学性を是正すべく、1990年代半ばから科学的根拠に基づく医療（エビデンス・ベスト・メディシン）が重視されだし、各領域で科学的根拠に基づく治療の標準化がなされ、今世紀に入って各種ガイドラインが続々と登場してきました。乳がん領域では他領域に先駆けて、医療従事者向けあるいは患者さん向けのガイドラインが「日本乳癌学会」という乳がん専門家たちの集まりの公的刊行物として書籍として刊行され、定期的に改訂されるほか、webでも閲覧可能となっています。医師向けガイドラインは今年（2018年）大幅に改訂されていますが、乳腺専門医*の在籍する病院であれば治療内容の格差はほとんどありません。

*乳腺専門医：乳がん診療の経験や研究業績をもとに日本乳癌学会が認定する資格で、有資格者は日本乳癌学会のホームページから検索できます。



シェアード・ディシジョン・メイキングがキーワード

ガイドラインが作られた当初は、効果やQOL（クオリティー・オブ・ライフ＝生活の質）向上などの「益」に焦点が当てられ、副作用などの「害」はややもすれば二の次にされてきました。すなわち、治療効果の高い選択肢が優先して提示され、それを標準治療として患者さんに説明し同意を得るインフォームド・コンセントののち治療を行うのが一般的でした。ただ、治療選択肢の多様化に加えて、患者さんの価値観、人生観により「益」と「害」のバランス感覚も様々です。このような観点から、いまでは正確な情報提供のうえ患者さんの自己決定権を尊重し、医療者と患者さんが協働作業として着地点を見出すというシェアード・ディシジョン・メイキング**がこれからのガイドラインのキーワードとなりつつあります。

患者さんも自分自身の乳がんのことを十分に知ったうえで自ら治療方針決定に参加する - そのような時代になってきました。

**シェアード・ディシジョン・メイキング（shared decision making；現時点で日本語訳なし）：医療者と患者さんが協働して共通理解のもとに（shared＝分担された）、治療方針の決定（decision making＝意思決定）を行うこと。



市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

乳腺外科 稲治 英生